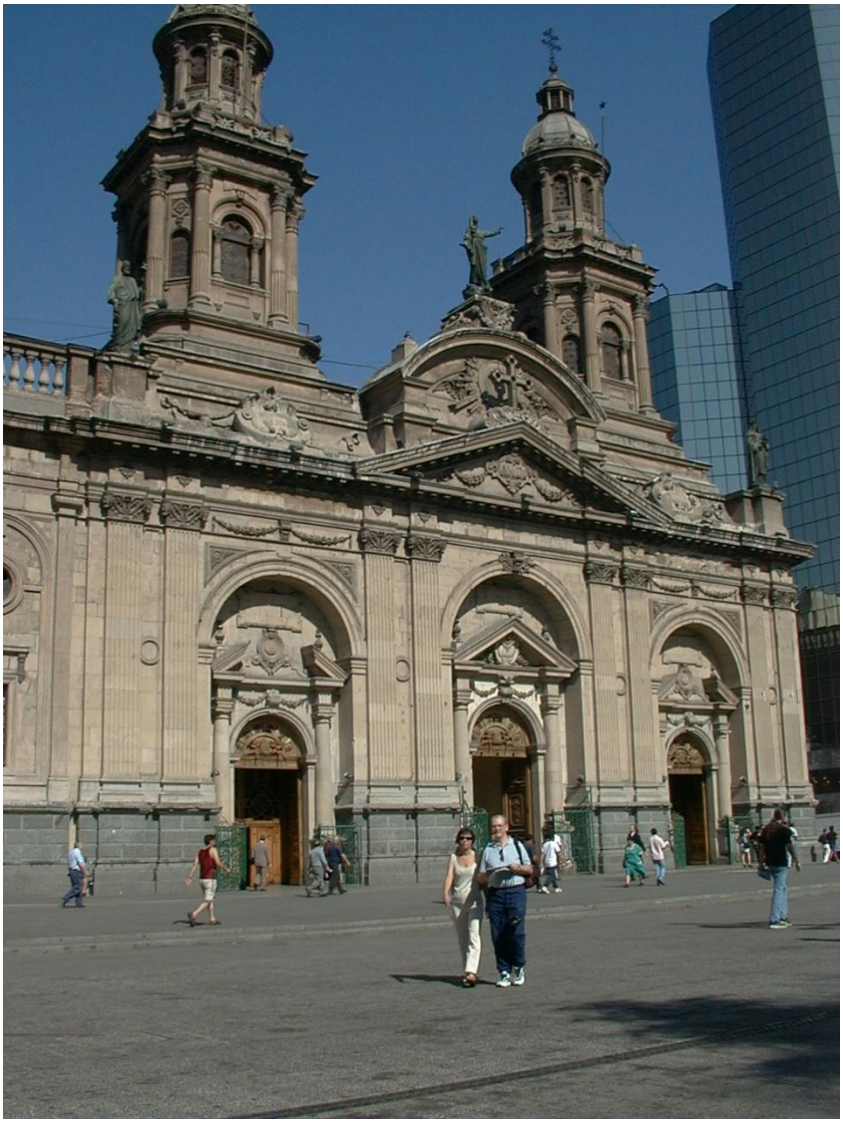
RECENT TOPICS

チリとの国際共同研究

1．チリおける「国際共同研究」の概要



観光客で賑わうサンチャゴのアルマス広場

チリとの国際共同研究は，研究概要「チリイチゴの生理・生態に関する研究」でも述べたとおり，主にイチゴについての研究で，1999 年から実施しています．これまでに私がチリを訪れただけでなく，チリの大学から先生と学生（1 年間）を受入れた他，野菜園芸学研究室を中心に延べ 10 人ほどの学生，卒業生がチリの大学を訪問しています．また，日本人客員教授の先生が 2 年間ほどタルカ大学に滞在され，研究を行いました．

チリにはイチゴだけでなく様々な植物遺伝資源があるだけでなく，北の砂漠地帯に始り，サンチャゴを始めとする中央部の地中海性気候帯，そして南部パタゴニアの寒冷地帯と，1 国の中に四季があるほどの気候の違いと，アンデス山脈や太平洋の雄大な自然，ブドウやリンゴなどの果物，ワインや鮭などの特産物 etc と，農学を専攻する人達にとって，誰しも一度は行ってみたくなるような場所です．

また，大学はヨーロッパやアメリカの大学の教育システムを導入し，研究設備も充実しており，研究レベルもかなり高い水準を維持しています．公用語はスペイン語ですが，自然科学系の先生方の多くがヨーロッパやアメリカで勉強していることから，学内での通常の会話

は英語で十分ですが，日本同様，街中では余り英語は通じないので，ある程度スペイン語を覚える必要があります.

首都サンチャゴの街並

タルカ大学
山形大学とは大学間交流協定を締結しています.

アルゼンチン国境にあるスキーリゾート地ポルティージョ

2. チリおける「国際共同研究」実施上の問題点

このように，チリは自然環境にも研究環境にも恵まれた非常に良い場所ですが，国際共同研究を実施するには問題もあります．その最大の問題は，何と言ってもチリが「地球の反対側」にあるという立地です．勿論南半球ですから季節も日本とは反対ですが，この点は農学をやっている人達にとっては案外有利に働くことが多いです．共同研究を実施するにはある程度は現地に行かなければいけないのですが，同じ季節ですと，こちらでも実験で忙しいときに時間を割いて出掛けなければいけなくなります．南米ならそういう心配はいらないので，同じイチゴの研究をするにしても，日本でイチゴが採れる時期は日本で研究を行って，日本でイチゴが採れない時期にチリに行ってチリのイチゴを採るといったようなことが可能になる訳です．

ですが，こういうごく希な利点を除けば，あとは困難の方が多いです．先ず，日本からチリに直行便はありません．一番距離的に近いのは，山形⇔東京⇔ロサンゼルス⇔サンチャゴ⇔タルカという経路ですが，時差の関係もあり，通常は行きに 2 日，帰りに 3 日かかります．そのため，10 日間の予定で共同研究をしに行っても，実質的に現地にいられるのはその 1/2 ということになります．しかも，長時間飛行機に乗っている疲れと時差ぼけは相当なものです．更に，9.11 以降は米国の入国審査が非常に厳しくなり（米国はトランジットであっても一端入国審査を受ける必要があります），ESTA を取得しておかなければいけないとか，チリの空港で OK であった手荷物が米国では許可されなかったりとか，面倒なことも多々あります．

そのため，敢えて米国を避けて，カナダやヨーロッパを経由してチリに行くような場合もありますが，当然距離は格段に長くなります．

ペルー，ボリビア国境近くのアタカマ高地

パタゴニアのパイネ国立公園

また，旅費もかなりかかります．同じ国際共同研究を実施するにしても，日本とチリを往復する一人分の運賃があれば，タイや中国なら三人分くらいの旅費に相当してしまうこともあります．そのため，必要があってもそう頻繁に行ける訳でもなく，また，気軽に学生を連れて行ける訳でもありません．インターネットがこれだけ発達した時代になっても，やはり現地を訪れてサンプリングや打合せを行わないと，何事も上手く行かないのは大学の研究も同じです．ですから，南米との共同研究には，先ずスポンサー探しや研究費の獲得が第一で，そのハードルを越えてからでないと研究を進めることが出来ないという欠点があります．

タルカ大学で行われたチリイチゴの国際シンポジウムで発表する野菜研学生

このように，チリとの国際共同研究には困難も多いですが，得られるものも多いです．チリでも日本の大学との国際共同研究は非常に少なく，それだけでも珍しがられるのですが，ラテンの文化を直接肌で触れるという異文化体験は，学生諸君にとっても非常に有意義な経験です．また，多くの学生諸君は，国際的な場で活躍する際にどうしても不可欠な英会話能力の欠如を痛感させられると思います．そういう経験を通して，学生時代に少しでも英語のコミュニケーション能力を養ってくれたら何よりです．

さて，チリから始まった南米での国際共同研究は，その後徐々に広がってチリでも「イチゴプロジェクト」としてかなり大きな政府の予算を獲得することが出来ました．また，こうした地域在来の遺伝資源に関する国際共同研究は，チリに留まらず，ペルーやパラグアイなど，近隣諸国との関係も徐々に深まって行っています．そのため，今後はこうした南米の国々

との間でより緊密な学生交流や研究交流を実施して行きたいと考えています．そのためには，何よりも学生諸君が日本以外の国々にも目を向け，大いなるチャレンジ精神を持って積極的に海外に出ていって欲しいと思います．

アスンシオン大学（パラグアイ）

ラモリナ農業大学（ペルー）
山形大学とは大学間交流協定を締結しています．

マチュピチュ（ペルー）

カトリカ大学（ペルー）
山形大学とは大学間交流協定を締結しています.